

## 「『捏造津波石』問題始末」を読んで

朝日新聞社編集委員\* 泊次郎

### (はじめに)

問題の記事を書いたT記者とは、私のことである。山下さんには9月7日夕方、宿舎にFAXで記事のコピーを送った。1時間ほど後にかかってきた電話で、山下さんは記事掲載とFAX送付の礼を述べられ、大変喜んでおられる様子だった。このときには、批判めいた話は全く出なかった。こちらも調子にのって、9日には山下さんに掲載紙を送ったついでに、個人的な頼み事をする手紙を書いてしまったのを、今となっては大変後悔している。

それから3日たって、大変手厳しい批判の手紙をいただいた。9日の電話との落差の大きさに、大層困惑したのを覚えている。この手紙に対して、誤解を解くべく返事を出したのだが、説得力を持たなかったようである。編集委員長から送られてきた「『捏造津波石』問題始末」を読むと、事情をご存じでない第三者には、若干の誤解が生じるのではと考え、このコメントの掲載をお願いした次第である。

### (朝日新聞の捏造はあったのか)

記事の見出しが適切だったかどうかを別にすると、山下さんの主張は「この発端は、朝日新聞が写真を捏造したことから始まったもので、問題の記事は、この事実をはっきり指摘しておらず、いさぎよくない。いさぎよく誤りを認めるならば、『海嘯義捐小説』の写真を掲載すべきではなく、発端となった東京朝日新聞の「三陸東海岸大海嘯被害図」を載せるべきだった」という趣旨であるように理解する。

問題の写真は朝日新聞が捏造したものなのか。これについての山下さんの主張には、異論がある。

「捏造」を『大辞林』で引くと、「実際にはありもしない事柄を、事実であるかのようにつくり上げる」とある。「つくり上げる」ということは、明確な意志ないしは意図が必要だということである。100年以上たった今となっては、「意志」や「意図」など確かめようのない話である、と逃げるつもりは毛頭ない。明らかになっている事実から、ある程度までは、確かなことはいえるのではないかというのが、小生の主張である。

山下さんが明らかにされたのは、「三陸東海岸大海嘯被害図」に掲載の写真も『海嘯義捐小説』に掲載の写真の同一で(撮影者も当然同一と推定される)、撮影者は浅草蔵前の「込山英松氏」、もしくは陸中花巻の「照井政太郎氏」と考えられるということであ

る。もう1点(これは山下さんの報告を読むだけでは分からない)は、「三陸東海岸大海嘯被害図」は、当時の東京朝日新聞の付録として新聞に折り込まれたもので、これには新聞1頁大1枚に大津波の被害惨状を示す写真23枚が掲載されていて、問題の「津波石=弁慶石」の写真は、このうちの1枚だという事実である(写真参照)。

の事実から、「三陸東海岸大海嘯被害図」に掲載された「弁慶石」の写真は、撮影者本人または代理人によって、新聞社に持ち込まれた写真であることがいえる。撮影者本人は、正しい撮影場所を知っており、朝日新聞の編集者が捏造したのなら、撮影者もしくは代理人と共謀の上ということになる。だが、の事実と合わせると、これは極めてありそうにもない。

すでに述べたように、「弁慶石」の写真は、号外に掲載された23枚の1枚にしかすぎず、「弁慶石」の写真は、中央に大きく扱われた3枚の写真の中にも入ってはいない。(せつかく)捏造したのなら、もう少し目立つ扱いをするのが普通だろう。「意図」が見えないのである。

仮に「弁慶石」の写真がなくても、大津波の猛威や被害の悲惨さを伝えるという号外の目的は十二分に達せられたであろうことも、他の写真を見れば明らかである。つまり、編集者が捏造を意図する動機も見当たらないのである。

同じ写真が後日発行の『海嘯義捐小説』にも掲載されている事実を合わせ考えると、撮影者あるいは代理人が、現地の地理や状況にうとい朝日新聞と風俗画報の編集者の両方を欺いた(写真掲載料を余計に手に入れるという動機で)とする方が、無理がないのではなからうか。

もちろん、記事にあるような「唐丹」と「遠野」の聞き間違いという可能性も否定できないが、同じ誤りが2度も繰り返されたということになり、これは今考えると少々不自然である。

2番目のなぜ、「三陸東海岸大海嘯被害図」に掲載された写真を記事に掲載しなかったという点について弁明すると、新聞社には号外全体が電子データで保存されていたが、「弁慶石」1枚だけ拡大すると、不鮮明で新聞では使い物にならないことは、取材当日見られた山下さん自身もご存じのことである。このため、山下さんから写真のコピーをもらい、出稿したが、鮮明度の点で著しく見劣り(コピー自体には問題はなか

\* 〒104-8011 中央区築地 5-3-2

った)、同じ写真ならもう少し鮮明な『海嘯義捐小説』の写真を使うべきだととなった次第である。山下さんのいわれるように責任逃れのつもりなどは毛頭なかった。ただ、「山下さんが転載した…」との写真説明はもっと他に適切な表現の方法があったと反省している。

（「結果」と「意図」とは区別を）

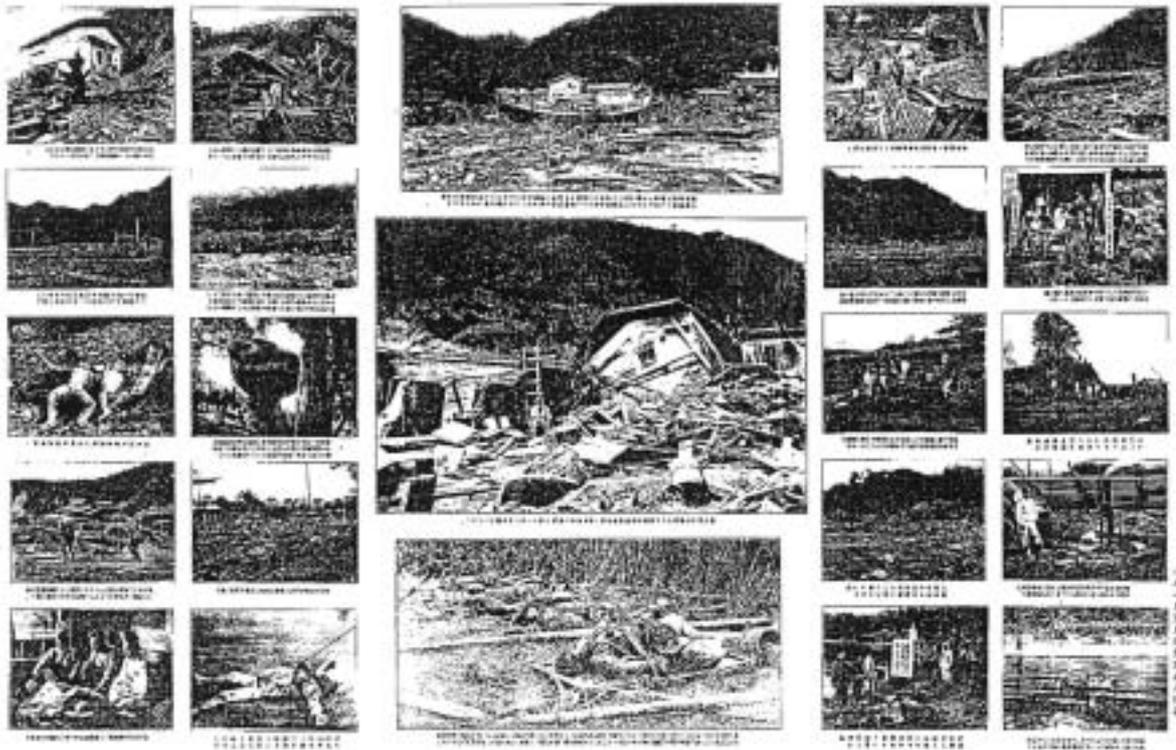
山下さんが小生の当日の取材を「40分の離れ業」と強調しておられるのは、少々気になる。結果的にはその通りではあるのだが、当日の予定では、山下さんとのインタビューには2時間以上の時間をあてていた。ところが、時刻表に掲載されていた釜石発の予定の列車が運転しておらず(後で聞くと、夏の最盛期だけ運転の列車だった)、仕方なく次の列車に乗って、大船渡に向かったという事情があった。山下さんには、

釜石駅から約束の時間に大幅に遅れることをわびる電話をしたので、お忘れではないはずだ。こうした事情を知りながら、「40分の離れ業」を強調するのは、いかな「意図」があるのであろうか。

津波石の写真を誤って掲載した責任は朝日新聞にある。結果責任は負わなければいけないし、それなりに負ったつもりである。しかし、「意図」と「結果」がしばしば食い違うことは、だれもが承知していることである。「意図」と「結果」を、できるだけ区別して議論しないと、歴史研究の豊かな成果は生まれないのではないかと考えている。

なお、この小文の文責は泊次郎個人にあり、朝日新聞社の見解というものではないことを最後にお断りしておく。

三陸東津六海跡遺園園



三陸東津六海跡遺園園

三陸東津六海跡遺園園